

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立双ヶ丘中学校

4月19日に、中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとめました。今年度の調査は、国語と数学と理科の3教科のテストと同時に、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査も実施されております。調査結果を踏まえ、生活習慣や学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学・理科）

各教科の平均正答率は、数学は全国平均と同じで、国語・理科は全国平均を下回る結果になりました。学習指導要領を踏まえ各教科ともに問題を領域別や観点別、解答の形式別にみると全国平均を上回るもの、下回るものがありました。その結果から本校の課題が明確に表れました。結果を分析し、改善を図るための授業改善に努めてまいります。また個人でも、結果を見ながら各自の弱点克服に努めていくことが大切です。

国語科より

全体的に全国平均を下回っており、課題が多い。とくに知識や、話すこと・聞くことの観点が弱く、これまでの知識が定着できていない。「読むこと」は平均を1.5ポイント上回っているので、インプットの面では比較的できていると言える。また、「書くこと」においても全国平均を3.1ポイント上回り、作文課題の成果が出ているといえる。しかし「話すこと・聞くこと」においては京都府平均から2.8ポイント下回っている。最も重大な課題は文法項目で、全国平均より3.0ポイント下回っている。

引き続き作文課題をあたえ、書く力を定着させていきたい。知識の面においては、小テスト等を繰り返し、知識の定着をはかる。また、プレゼンテーションやスピーチなど発表の機会をもたせ、話すこと・聞くことのポイントをおさえていくことが大切である。

数学科より

全体の平均正答率は全国、京都府に比べほぼ同じであった。問題形式では、短答式の正答率は高く、記述式は低かった。単元別では、ほぼ差がない状況であり、観点別でみると思考・判断・表現がやや低かった。普段の授業で十分に時間をかけて学習できていない内容はやはり正答率が低く、証明等の記述や説明を書く指導は不十分であり、正答率は低かった。

各単元で正答率の低かった問い合わせに関しては、授業でも復習し、取り組んだ結果、学習確認プログラムでその単元の正答率も上がった。

今後、証明や説明が必要な課題を考え、その課題に関して、じっくりと考え、グループ等で話し合う機会をもうけるようにしていく。記述する練習もしっかりと行うなどの授業改善、工夫も今後すすめていくことが大切である。

理科より

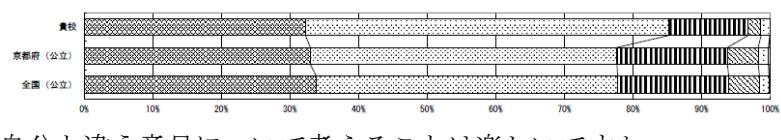
全国平均と比べて全体的に無回答率が高い。特に、事象の観察から注目した要因や実験の結果を分析して解釈し、判断する問題、予想や仮説に基づいて観察実験を計画する問題、科学的な探求の方法が適切かどうか検討して改善する問題、他者の意見が妥当であるか検討する問題などの記述回答の問題が高かった。

わからない問題に解答しないという態度については指導が必要で、「なにかしら書く」という試験に向けての姿勢を育てたい。無回答となる問題が、実験の妥当性を問う記述問題であることから、自ら実験を計画・実施する授業展開や、実験の計画を相互評価し、不足を指摘しあう授業展開を行い、科学的な思考力、実験条件の整理の仕方を身に着けさせていくことが大切である。

生徒質問紙調査から見える成果

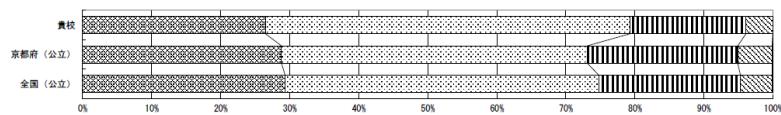
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまらない
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 5. 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない
 無回答
1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまらない
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 5. その他



自分と違う意見について考えることは楽しいですか

1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまる
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 5. その他
 無回答

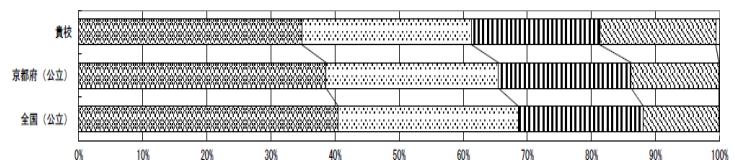


肯定的な回答が京都府、全国より上回っている。各教科、コミュニケーション能力（お互いの考えていることを伝え、理解し合える力）の向上を課題として、授業改善を心がけてきた成果が少し現れた結果となった。学校評価（保護者対象）アンケートにおいても、「子どもが、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりすることができる」項目においても、学年が上がるにつれて、肯定的にとらえていただく保護者が多くみられた。

生徒質問紙調査から見える課題①

「将来の夢や目標を持っていますか」

1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまる
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 5. その他
 無回答

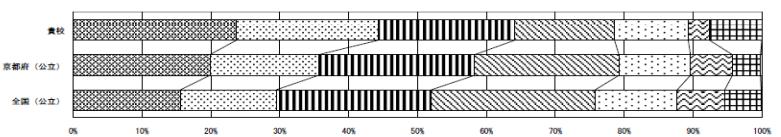


ここ数年、本校の生徒は肯定的な回答が全国、京都府より値が低くなっています。また、無回答の生徒もいました。夢や目標を持ち、チャレンジしていくことが、大切です。目標が達成できないかもしれません、チャレンジし行動していくことが、皆さんの成長につながります。

生徒質問紙調査から見える課題②

「1日どれくらいの時間、携帯やスマホでSNSや動画視聴などをしますか。」

1. 4時間以上
 2. 3時間以上、4時間より少ない
 3. 2時間以上、3時間より少ない
 4. 1時間以上、2時間より少ない
 5. 30分以上、1時間より少ない
 6. 30分より少ない
 7. 携帯電話やスマートフォンを持っていない
 その他
 無回答



本校生徒は、3時間以上使用している生徒が約45%と全国・京都府よりもかなり割合が高い。また2時間以上となると約65%、比較するとさらに高くなる。帰宅後の時間の使い方を今一度見直し、家庭学習の時間も含め、計画的に時間の過ごし方を考えましょう。また、携帯・スマホのお家でのルールは守ってください。

全体を通して本校の課題

今年の結果数学は、ほぼ全国平均と同じ程度であり、国語・理科は全国平均を下回る結果となりました。各教科とも問題の分類や区分から見ると、課題は明確であり、改善に向けて分析し、教員の授業改善を図ることはもちろん、生徒の皆さんも今一度自分の学習への取組を見直すことが重要となります。

学習指導要領を踏まえ、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけ、知識・技能と思考力・判断力・表現力等が一體的に高まっていくことで深い学びになっていきます。学校での学びが将来生きていくための基盤となるものであることを考えて、学習に取り組むことが大切になってきます。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばし、課題を解決していくためのものです。望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤であり、子供は学校・家庭・地域との協力があり成長していくものです。今後とも引き続き子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力ををお願いいたします。本校でも授業改善はもちろん、子供たちの成長のために教育活動に邁進していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。